
授業中

柳川

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

授業中

【Nコード】

N6543D

【作者名】

柳川

【あらすじ】

大人なのか子供なのか。そんな授業中の葛藤を書いてみました。

午後の授業が始まった。

食後のこの時間帯、教師がいくら頑張ろうとも結局は独り相撲。

隣と話してる

ヤツ、うとうとしてるヤツ、内職に勢を出すヤツ。

そんなヤツらを一番後ろの列に座るわたしは心の中で叱責する。

授業は真面目に聞くのは当たり前。そう毒づきながらもサボってしまいたい自分がいる。

素直じゃなくなったな…。

高校2年生。17歳。大人なのか子供なのか。最近そんなことを考える。

2

髪を薄茶色に染めてみた。すこしウェーブもかけてみた。

でも、何も変わらない。

ふと横を見る…。

こいつ…。

教科書を枕代わりに机にうつ伏せになっている。

「橋本、お前もこうやってみるよ。」

伏せたまま白石が『シシシ』と歯を出して微笑む。

「授業中だから…」

わたしは軽く返事をした。
やっぱり素直じゃないな。

「いいからさ。」

小さな声が帰ってきた。

ふと窓ごしに空を見る。

昔と変わらない青空、白い雲。目を細めて、じつと眺める。

昔と同じ…。昔から変わらないこいつ。結局わたしだけが先走っていた。
わたしはまだまだ若い。子

供…。急に気が楽に

なった気がした。こいつに身を任せてやろう。

『はっ』

背伸びをして、教科書をぱたたと閉じる。快音が響く。

机にうつ伏せになって白石の方を見て『シシシ』って歯をだして笑ってみた。

作り笑いではない。胸の奥底からさわやかな、さわやかな。

白石が延ばした手にわたしの手を重ねる。自然な流れ。心地よい。
二人同時に『シシシ』って笑う。やさしく。あたたかく。

これから何かが変わる。きっと。きっと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6543d/>

授業中

2010年10月24日14時00分発行